

鳥取県沖合におけるクロザコエビ属の 漁獲実態について

倉 長 亮 二

(鳥取県水産試験場)

鳥取県におけるクロザコエビ属は、沖合底引き網漁業で漁獲され、クロザコエビ *Argis lar* (OWEN), トゲザコエビ *A. dentata* (RATHUBUN), *A. hozawai* (YOKOYA) の 3 種が認められる。*A. lar* はモサエビ、ホンモサ、シロモサ、*A. dentata* はガラエビ、ガラモサ、と称され、*A. hozawai* はモサエビの中にごく希に漁獲される。

漁獲量 (漁獲統計調査)

本県の、沖合底引き網漁業の代表港である網代港漁協の、1990年5月から1991年4月までの水揚げ台帳から集計した、エビ類の水揚げ量を表1に示す。これによると、エビ類の漁獲のうち73.4%がホッコクアカエビで、ついで *A. lar* が16.0%、*A. dentata* が9.9%となっている。

次に月別漁獲量組成を表2に示した。年間漁獲量では最も漁獲量の多いホッコクアカエビは、5、9、10、11、12月では全体の70%を占めているが、1月は65.9%に下降し、3、4月は全体の20%台にまでになっている。これに代わって、3、4月は *A. lar* が漁獲の主体となり、全体の60%台にまでになっている。*A. dentata* は、11、12月に多獲されており、最も多いときで全体の21.9%を占めている。この漁獲変動の原因の一つは、網代港漁協の漁獲パターンが、9月の漁期始めは生息水深の深いホッコクアカエビを漁獲の主体としており、1月以降は水深の浅い場所でアカガレイを漁獲の主体とするためと思われる。

表1 網代港におけるエビ類の水揚げ量

(kg)

	<i>A. lar</i>	<i>A. dentata</i>	ホッコクアカエビ	イバラエビ	モロトゲアカエビ	合計
'90年5月	2001	354	14271	79	0	16705
9月	2445	1899	29586	15	0	33945
10月	1250	4032	26530	24	6	31842
11月	555	2612	8715	6	12	11900
12月	537	1875	6678	36	9	9135
'91年1月	1434	1155	5034	15	6	7644
2月	2773	630	4141	63	18	7625
3月	6420	477	2407	225	57	9586
4月	4157	383	1932	309	27	6808
合計	21572	13417	99294	772	135	135190
%	16.0	9.9	73.4	0.6	0.1	100.0

表2 網代港で水揚げされたエビ類の組成

(%)

	<i>A. lar</i>	<i>A. dentata</i>	ホッコクアカエビ	イバラエビ	モロトゲアカエビ	合計
'90年 5月	12.0	2.1	85.4	0.5	0.0	100.0
9月	7.2	5.6	87.2	0.0	0.0	100.0
10月	3.9	12.7	83.3	0.1	0.0	100.0
11月	4.7	21.9	73.2	0.1	0.1	100.0
12月	5.9	20.5	73.1	0.4	0.1	100.0
'91年 1月	18.8	15.1	65.9	0.2	0.1	100.0
2月	36.4	8.3	54.3	0.8	0.2	100.0
3月	67.0	5.0	25.1	2.3	0.6	100.0
4月	61.1	5.6	28.4	4.5	0.4	100.0

生態（生物調査）

1 *A. lar*（クロザコエビ）

本県沖合底びき網漁業の基地である賀露，網代，田後の3漁協で1990年10月から1991年2月までに漁獲された*A. lar*の頭胸甲長と生殖腺重量の関係の月別推移を図1に示した。これをみると，各組合間でばらつきはあるものの，12月から1月に生殖腺重量が低くなっており，この時期が，産卵期と考えられる。

図2に月別組合別体長組成を示した。黒塗部分は抱卵個体であるが，この減少が見られる時期は，賀露で1及び11月，網代で12月となっており，この結果からはふ出期の特定は出来なかった。

2 *A. dentata*（トゲザコエビ）

1990年9月から1991年2月までの3漁協で漁獲された*A. dentata*の頭胸甲長と生殖腺重量の関係の月別推移を図3に示した。*A. lar*に比べ生殖腺重量の変化ははっきりしないが，網代の12月以降，田後の12月において，若干減少傾向が見られる。図4に月別組合別体長組成を示した。黒塗部分は抱卵個体であるが，この減少が見られる時期は，賀露で10，11月及び1月，網代で11月，田後では10，12，1月となっており，網代以外では抱卵個体が少ないのが特徴的であった。

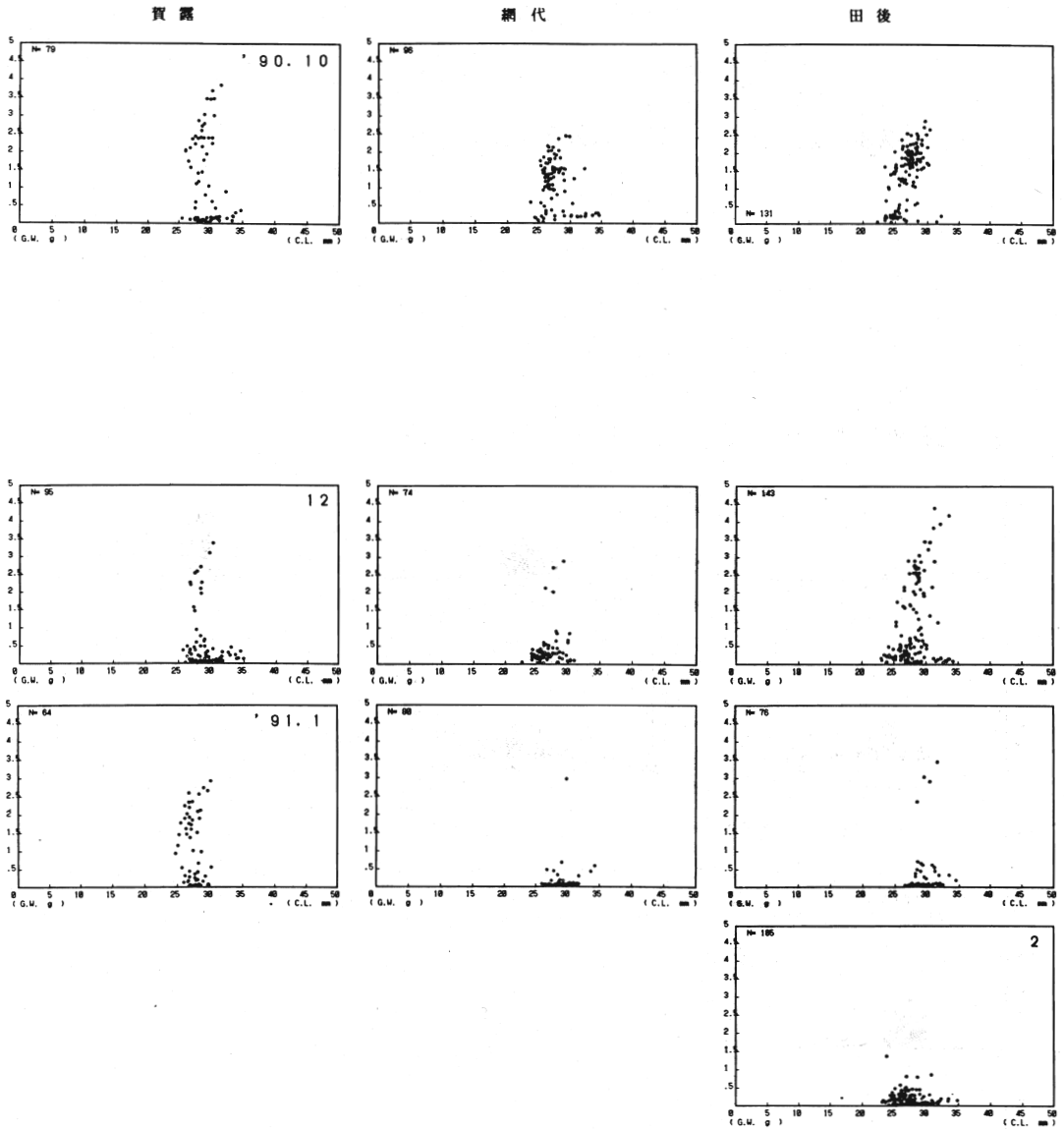


図1 生殖腺重量の月別推移 (*A. lar*)

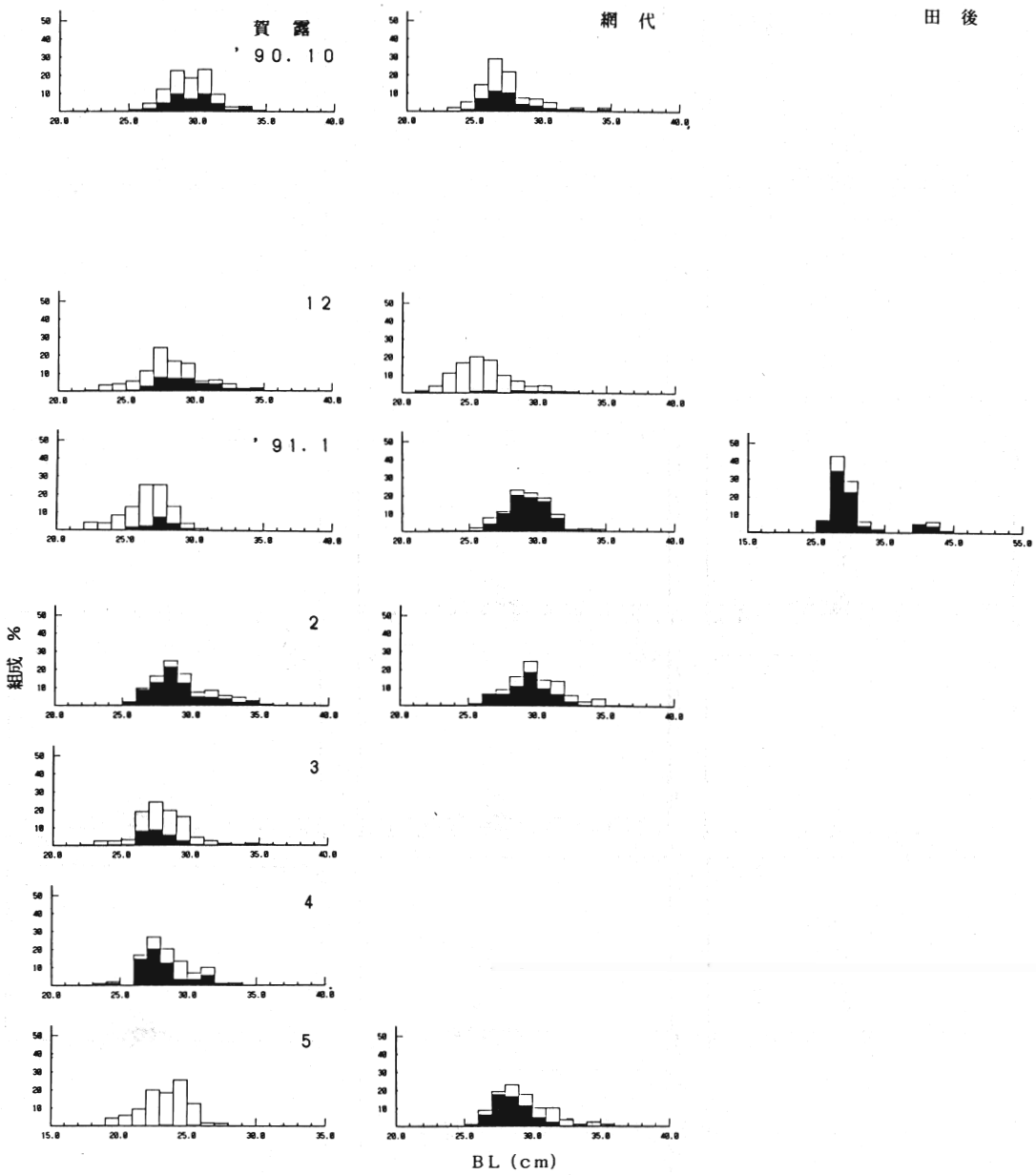


図2 体長組成の月別推移 (*A. lar*)

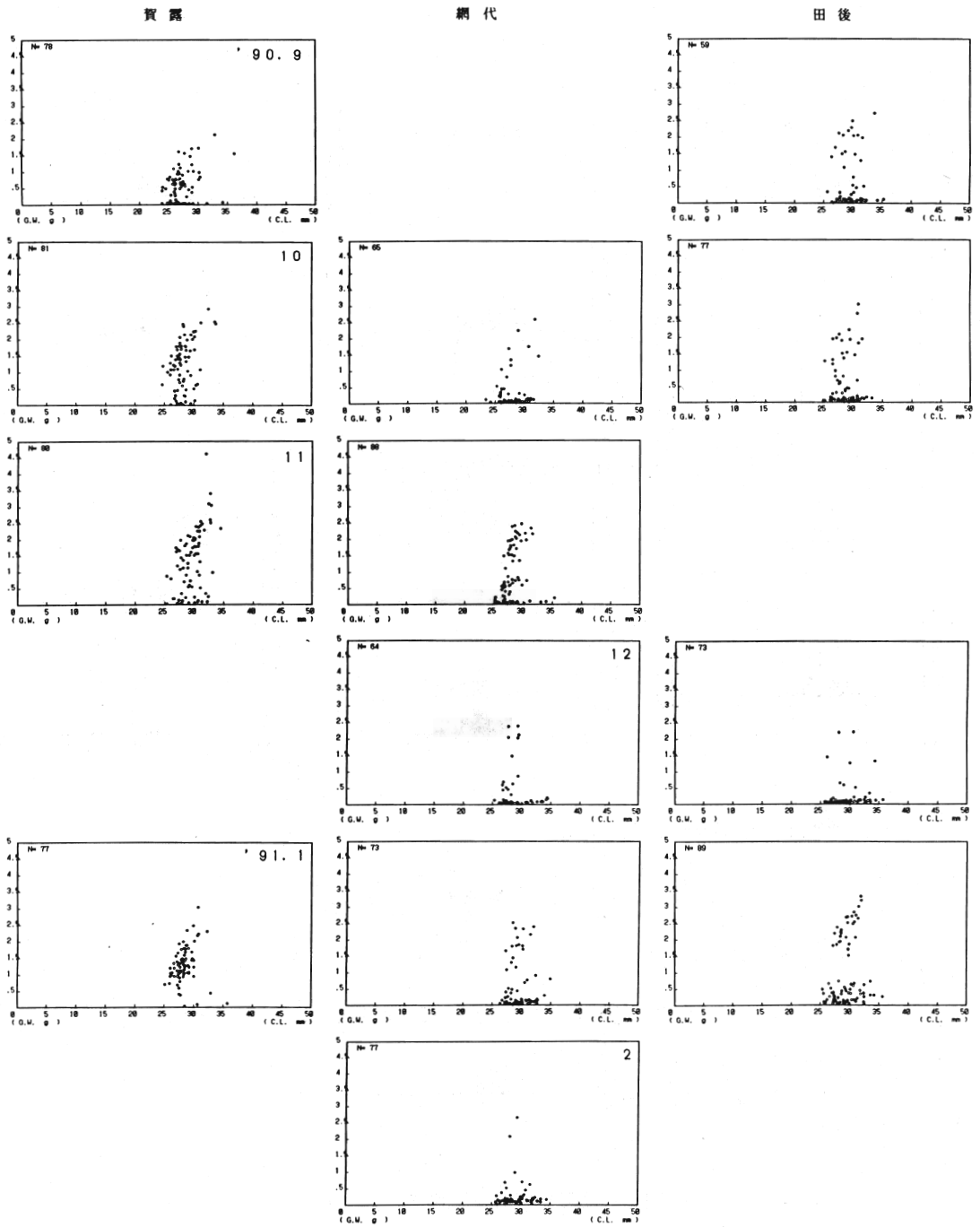


図3 生殖腺重量の月別推移 (*A. dentata*)

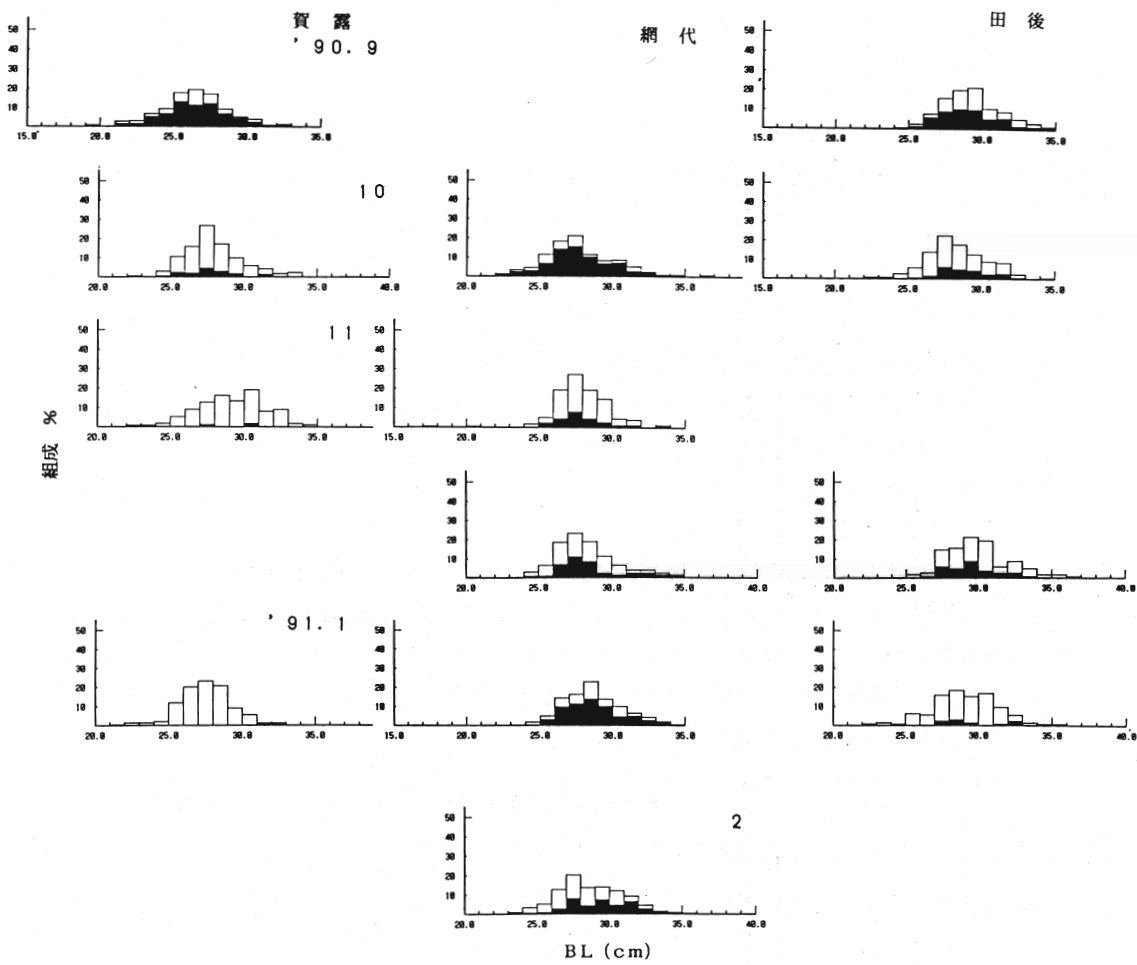


図4 体長組成の月別推移 (*A. dentata*)